



さんぽ 松崎・三浦歩道となまこ壁ウォーク

2025.03.23 健脚 7.5km 普通 7km ゆったり 4km

コース

往路 富士宮駅南口 == 新富士IC == 長泉沼津IC == 伊豆のへそ(WC) == 7:00 7:50~8:00

伊豆の長八美術館P(WC) == 岩地駐車場(体操)

9:10~20 9:30~40

ウォーク 岩地駐車場(スタート)・・・石部(いしづ・WC)・・・黒崎展望所・・・三競展望台

9:40 11:10~20 12:10~15 12:30~35

・・・雲見(AMゴール・昼食・WC)・・・仲嶋駐車場 == 伊豆の長八美術館P・・・

12:50~13:30 13:40 13:50

松崎なまこ壁ウォーク・・・伊豆の長八美術館P(ゴール・WC)

14:40~50

復路 長八美術館P == 伊豆村の駅(WC) == 長泉沼津IC == 新富士IC == 富士宮駅南口

14:50 16:10~40 17:40

*コースタイムは健脚コースの予定時間を示す

- ① 健脚コース: 三浦歩道ほぼ全コース(アップダウンが多い)
- ② 普通コース: 岩地～石部は三浦歩道(一部舗装路)を歩き、石部～雲見は国道を歩く
- ③ ゆったりコース: 岩地浜を歩いた後国道を石部まで歩き、石部～雲見はバス移動

参加者の皆様へ

- ・無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

緊急時連絡

松井 隆子 090-9910-2192
高戸 栄行 090-8135-3306

コースの概要

岩地駐車場にて体操をしてウォークスタート。岩地海岸まで降りて三浦歩道の案内板がある地点で細い坂道を上り、国道136号線を横断して山道に進みます。アップダウンを繰り返しながら石部に進み、トイレ休憩です。階段や急坂が苦手な人は途中まで舗装された道を行き(普通コース)、健脚メンバーと合流します。山道は多くの分岐がありますので案内板に従って進んでください。石部から山道川沿いの道歩いた後、伊志夫(石部)神社脇の道を行き、黒崎展望所、三競展望台を経由して国道に出ます。一部三浦歩道コースを回避して国道を歩き、雲見浜で昼食になります。展望台から見える海岸沿いの景色は素晴らしいです。晴れていれば富士山もくっきり見えます。三浦歩道はアップダウンが多い上に落ち葉が重なり、道も傾斜して歩きづらい場所があるのでストックを使いましょう。また、足に不安のある方は普通コースやゆったりコースを選択してください(3コースの内容はコース欄参照)。普通コースでは歩道のない国道を歩きます。車の通りは少ないですが、危険ですので1列で白線内を歩きましょう。

昼食後は仲嶋駐車場からバスで伊豆の長八美術館駐車場に移動し、なまこ壁が美しい松崎町を散策します。呉服商を営んでいた伊豆文邸と呉服問屋であった中瀬邸は無料で解放されているのでゆっくり見学してください。散策後は美術館の駐車場がゴールです。

帰路ではおなじみの伊豆・村の駅に寄りますのでショッピングをお楽しみください。

次回申込(朝・集合場所で) 浜名湖畔ウォーク(Ⅰ)

ガーデンパーク～館山寺

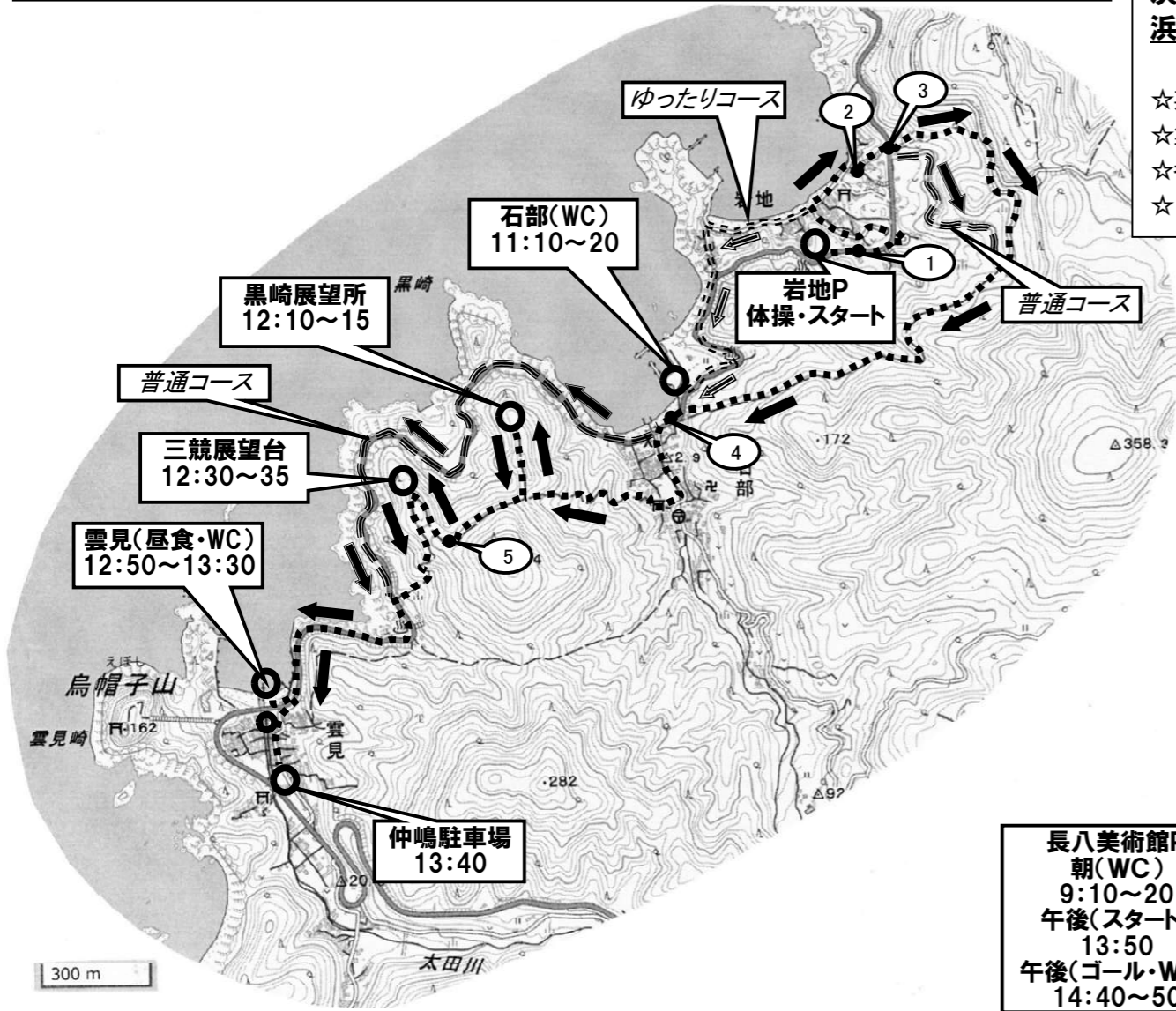
☆期日 4月27日(日)
☆集合 富士宮駅南口 7:00
☆参加費 5,500円
☆×切 4月21日(月)

三浦歩道

三浦(さんぽ)とは、1965年に道路が出来、バスが開通するまで「伊豆の秘境」と呼ばれていた岩地・石部・雲見の3浦を総称した呼称である。その3浦を道路が出来る前に地元の人達が利用していた生活路を歩くコースが「三浦歩道」である。延長4.8km、約2時間のハイキングコース。遠浅で美しい砂浜が魅力の「岩地海岸」が三浦歩道の起終点となる。道中には、富士山・駿河湾の素晴らしい景色が展望できる「黒崎展望所」や「三競展望台」、そして昔、石を切り出した跡の「石切丁場跡」があり、「雲見海岸」まで続いている。

松崎町のなまこ壁

建物の壁面に平瓦を貼り、「目地」と呼ばれる継ぎ目に漆喰をかまぼこ型に盛り上げて塗り、その形が海にいる「なまこ」に似ていることからなまこ壁と言われている。明治初期、松崎では養蚕が盛んになり、折からの絹の輸出ブームで富を得た人たちが、それまであまりなかった瓦葺きの家を作るようになる。松崎の冬の西風は猛烈なため、でより堅牢で火事にも強い建物が求められた。瓦を壁にも使用し、漆喰で塗り固めるなまこ壁が、こうして造られるようになったのである。やがて林業や漁業の発達もあり、豊かになった人たちが競うようになまこ壁造りの家を建てていった。近年、生活様式の変化や老朽化により数が少なくなっているものの、松崎町には、今なお多くのなまこ壁の建物が母屋として、土蔵として人々の日常生活の中に溶け込み、残っている。なまこ壁には、瓦を横に貼った「芋目地」、「馬乗り目地」もあるが、松崎町では方形の瓦を斜めに貼ることにより水はけをよくした「四半目地」が一般的な形となっている。



長八美術館P
朝(WC)
9:10~20
午後(スタート)
13:50
午後(ゴール・WC)
14:40~50